

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	徳島大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	トクシマダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F136110110231
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	徳島県
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	科目名	課題解決型インターンシップ (M)
	学部・研究科等名	大学院創成科学研究科理工学専攻修士課程
	担当教職員名・役職	寺田賢治・教授・副学部長 (教育)
	受講者数実績年度	令和2年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	10
	受入企業等数	27
	受入企業等名	(株)メディング/アース環境サービス(株)/能美防災(株)/住友電気工業(株)/東芝デバイス&ストレージ(株)/(株)デンソー/関西電力(株)/川崎重工業(株)/セイコーエプソン(株)/(株)荏原製作所/理想科学工業(株)/富士電機(株)/スズキ(株)/東日本電信通話(株)/(株)東芝/NECソリューションイノベータ(株)/(株)ゼロソフト/(株)JSOL/(株)関電システムズ/Sky(株)/エムオーテックス(株)/NTTアドバンステクノロジー(株)/富士通(株)/(株)NTTデータ関西/トヨタコネクティッド(株)/(株)スクウェア・エニックス/(株)infodex
	インターンシップの分類	1.長期 (概ね1か月以上) インターンシップ 5.他県をまたぐ広域インターンシップ 7.大学院生を対象とした研究インターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決 (例：ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	大学と企業間の共同研究にかかわる課題や、企業が新たに設定した自身の研究に関連する課題に関するインターンシップを通して、高い就業意識を育成する。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学院 修士1年 大学院 修士2年

	2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学院 4単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細	大学院修士課程1, 2年を対象に、夏季休業期間及授業期間中において、合計180時間以上のインターンシップを専門教育科目「課題解決型インターンシップ(M)」(選択4単位)として実施している。共同研究もしくは研究に関連する課題に対するインターンシップを実施することで、高い就業意識の育成と専門分野への理解を促す。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
	3-2-3.該当するモニタリング	2.インターンシップ中に、学生が定期的に大学等において教職員と面談を実施している
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	90分のガイダンスにおいて、長期インターンシップの主旨や目的を理解させた上で、諸注意を与えたり、保険に入らせるなどの事前学習を行っている。さらに計画書を作成させることで、インターンシップ中の目標を設定させ、計画をたてさせる。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	日報とレポートを提出させて、体験の振り返りを行なう。企業によっては、インターンシップ後に、企業担当者と指導教員に対する報告会を実施する。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	インターンシップ前およびインターンシップ中は、指導教員と綿密に連絡を取るよう指導している。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	
	4-3.上記回答内容に関する詳細	インターンシップ前に計画書、インターンシップ後にレポートを提出させる。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	

要素⑤	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	事前・事後学習を合わせて180時間以上のインターンシップを行っている。
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
	5-3.上記回答内容に関する詳細	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
	6-3.上記回答内容に関する詳細	企業に学生の評価と長期インターンシップ全般のアンケートをお願いしている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="https://www.tokushima-u.ac.jp/st/kana/campus/syllabus/internship/">https://www.tokushima-u.ac.jp/st/kana/campus/syllabus/internship/</a>
問い合わせ先	大学等名	徳島大学
	担当部署名	学務部学生支援課キャリア支援係
	担当者役職名	係長
	担当者氏名	田村 典子
	電話番号	088-656-7089
	メールアドレス	<a href="mailto:careerc@tokushima-u.ac.jp">careerc@tokushima-u.ac.jp</a>